

共に、生きる。

保護犬猫支援基金ご報告

(2022年5月末時点)

2022年6月

一般財団法人クリステル・ヴィ・アンサンブル



Christel
Vie Ensemble
Foundation

はじめに

保護犬猫支援基金は、当基金の趣旨にご賛同頂いた**スポンサー様、協力動物病院様、そして飼い主のいない犬猫の保護に尽力されている皆様**の存在があって初めて成り立つ仕組み（詳細 P.18）です。

スポンサー

ユニ・チャーム株式会社様

企画段階より趣旨にご賛同いただき、運営開始から継続してお力添えいただいております。

ニールズヤードレメディーズ様

売上の一部をご寄附いただき
温かいご支援をいただいております。

協力動物病院（あいうえお順）

あさか台動物病院様

さくら動物病院様

JAMC シェルタークリニック様

大師前どうぶつ病院様

なないろ動物病院様

ペットスペース&アニマルクリニックまりも様

らむ動物病院様

運営開始時より、
計7つの動物病院様に
ご参加いただいております。

申請手続きや仕組み説明等
負荷が増えてしまうのにも
関わらず、
快くご協力いただいております。



皆様に心より感謝申し上げます。 クリステル財団一同

1. 総括

2. 実績

3. 課題と改善策

4. 補足資料



1. 総括

1

実績 (2021年7月1日～2022年5月31日)

診察日ベースで計275.5万円 (551頭)の保護犬猫の
医療費補助実施

- ・ 運営開始時300万円/年の医療費補助実施を目標・想定とし、
各協力動物病院へ割り当て。11ヶ月間でのこの数字はほぼ想定通り

詳細 P.5～

2

課題と改善策～より多くの保護犬・猫たちのために～

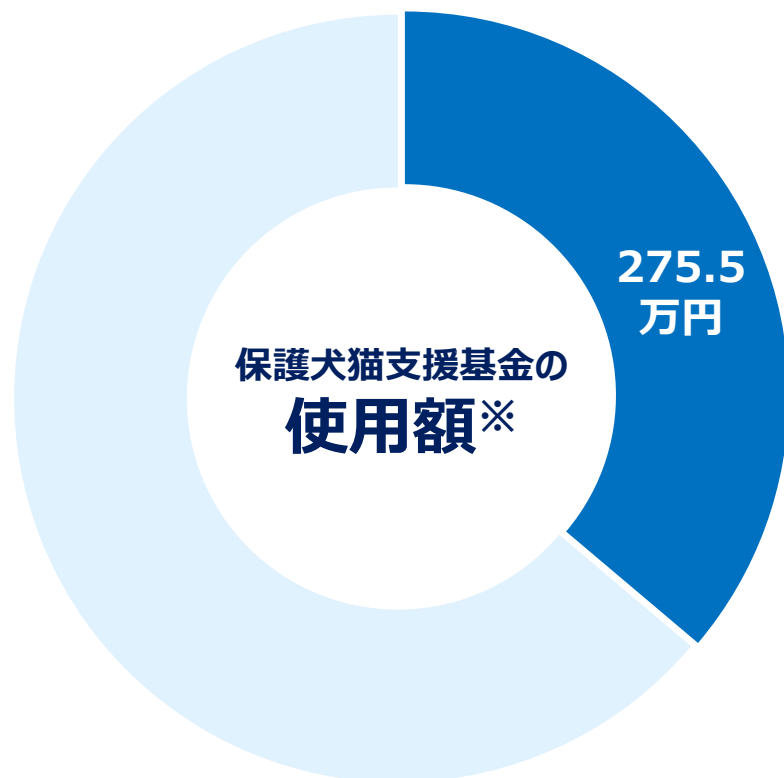
保護犬猫支援基金の認知度・浸透度アップ

保護犬猫支援基金の運営手続きの改善

詳細 P.14～

2. 実績

実績：医療費補助使用額



2022年5月末までに、保護犬猫支援基金に
入金されたご寄附は

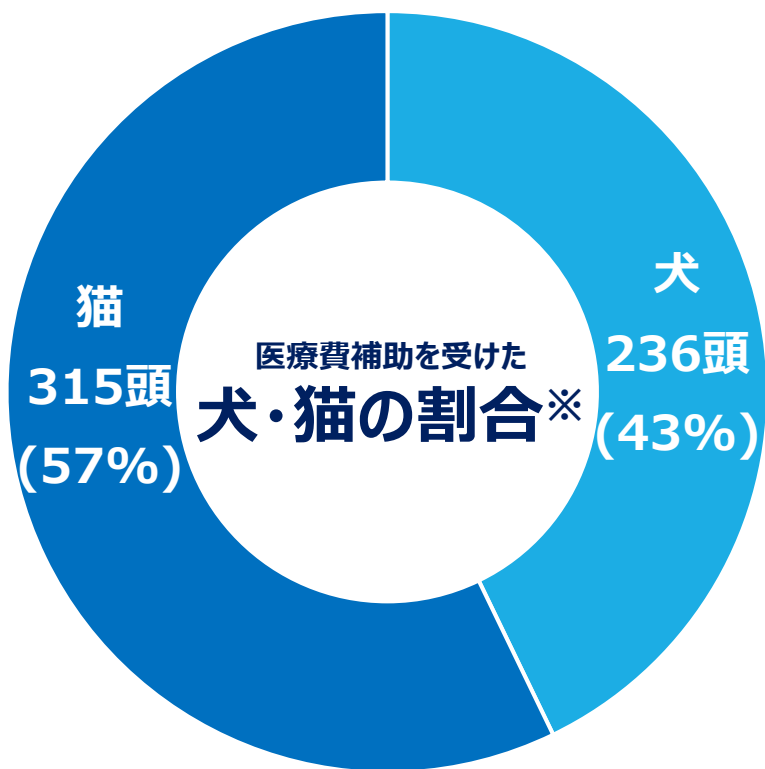
計761万7580円

うち**275.5万円**（計551頭）
をすでに医療費補助として活用

残金につきましては、6月以降の医療費補助として使用させていただきます。

※ 2021年7月1日～2022年5月31日（診察日ベース）
※ 各協力動物病院からの回答をもとにクリステル財団が作成

実績：医療費補助を受けた保護犬・猫の割合



医療補助を受けた保護犬・猫の割合は

犬約4割、猫6割

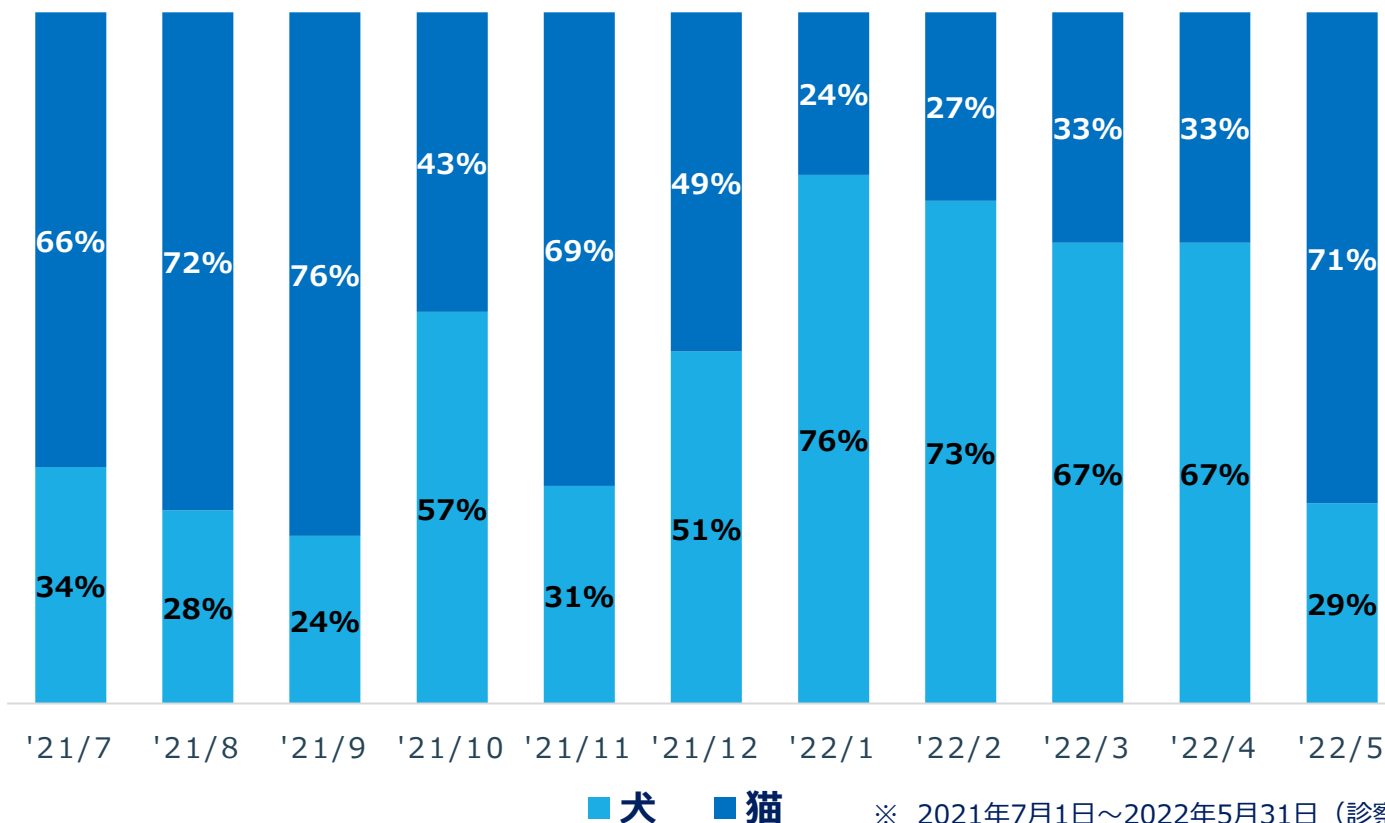
やや猫の割合が多い結果となった

※ 2021年7月1日～2022年5月31日（診察日ベース）
※ 各協力動物病院からの回答をもとにクリステル財団が作成

実績：医療費補助を受けた保護犬・猫の割合の推移

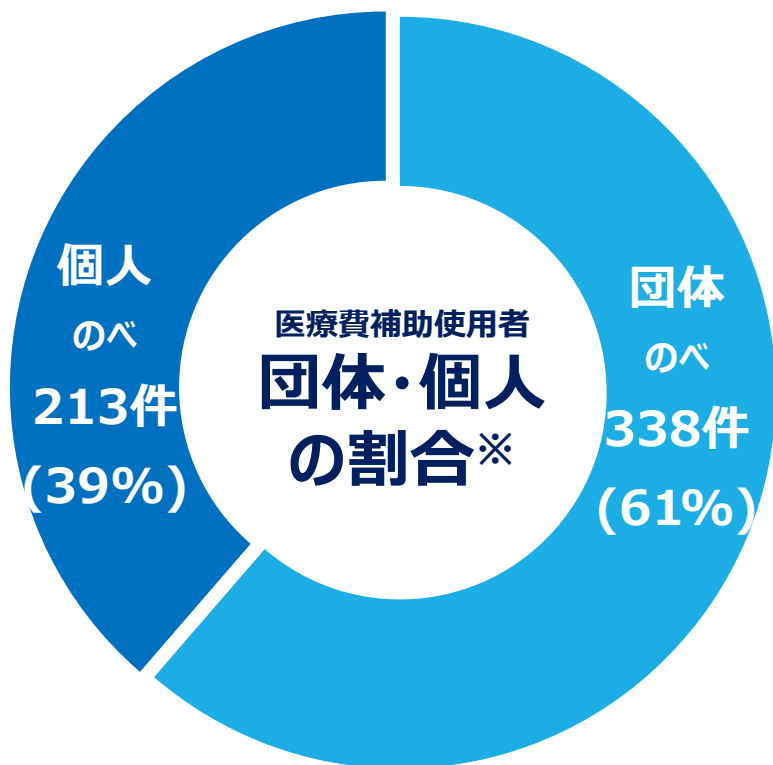
- 月別にみると、結果はまちまち
 - 傾向として、**春後半から夏**にかけては**猫**に対する医療補助の割合が多い一方、**秋冬**は**犬**に対する医療補助の使用割合が多い
- ⇒ 春～夏は春先に生まれた子猫にかかる各医療行為のため、動物病院の**繁忙期**
この影響が大きいと考えられるが、次期以降も継続してモニタリング・分析が必要

医療費補助を受けた犬猫の割合の推移※



※ 2021年7月1日～2022年5月31日（診察日ベース）
※ 各協力動物病院からの回答をもとにクリステル財団が作成

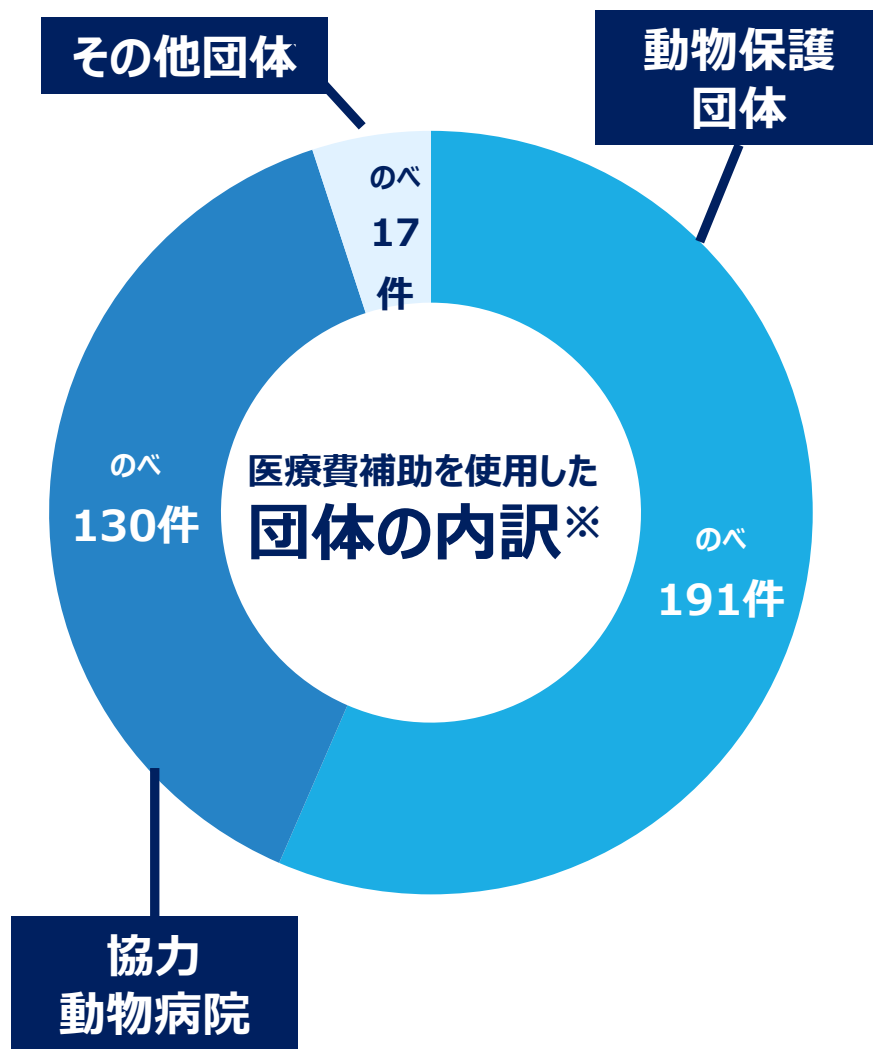
実績：医療費補助を使用した団体・個人の割合



医療補助医療補助の利用者は
団体約6割、個人約4割
やや**団体**による使用が多い結果となった

※ 2021年7月1日～2022年5月31日（診察日ベース）
※ 各協力動物病院からの回答をもとにクリステル財団が作成

実績：医療費補助を使用した団体の内訳



団体の内訳

- **動物保護団体**（計20弱程度）が、保護した犬・猫を連れてくるケースが最多
- 2番目は**協力動物病院自身**が保護した犬猫に使用するケース

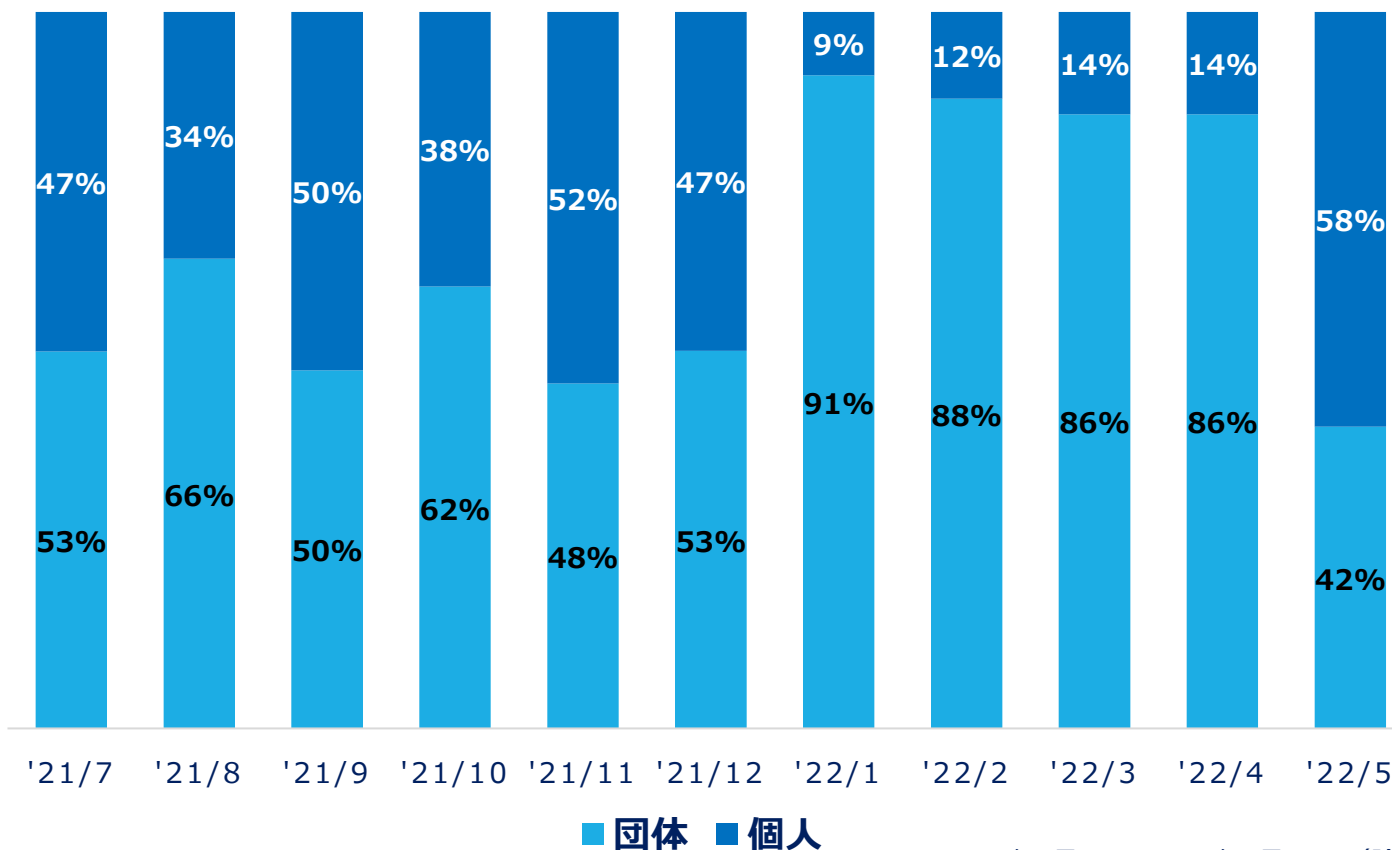
いずれの団体も、一度きりではなく、**複数回**の使用であった

※ 2021年7月1日～2022年5月31日（診察日ベース）
※ 各協力動物病院からの回答をもとにクリステル財団が作成

実績：医療費補助使用者（団体・個人）の割合の推移

- 月毎にみても、**団体（保護団体、動物病院等）**による使用が多い傾向
- 団体・個人問わず、使用者の多くが協力動物病院と**元々関わり/信頼関係のある保護団体・ボランティア**

医療費補助使用者（団体・個人）の割合の推移※



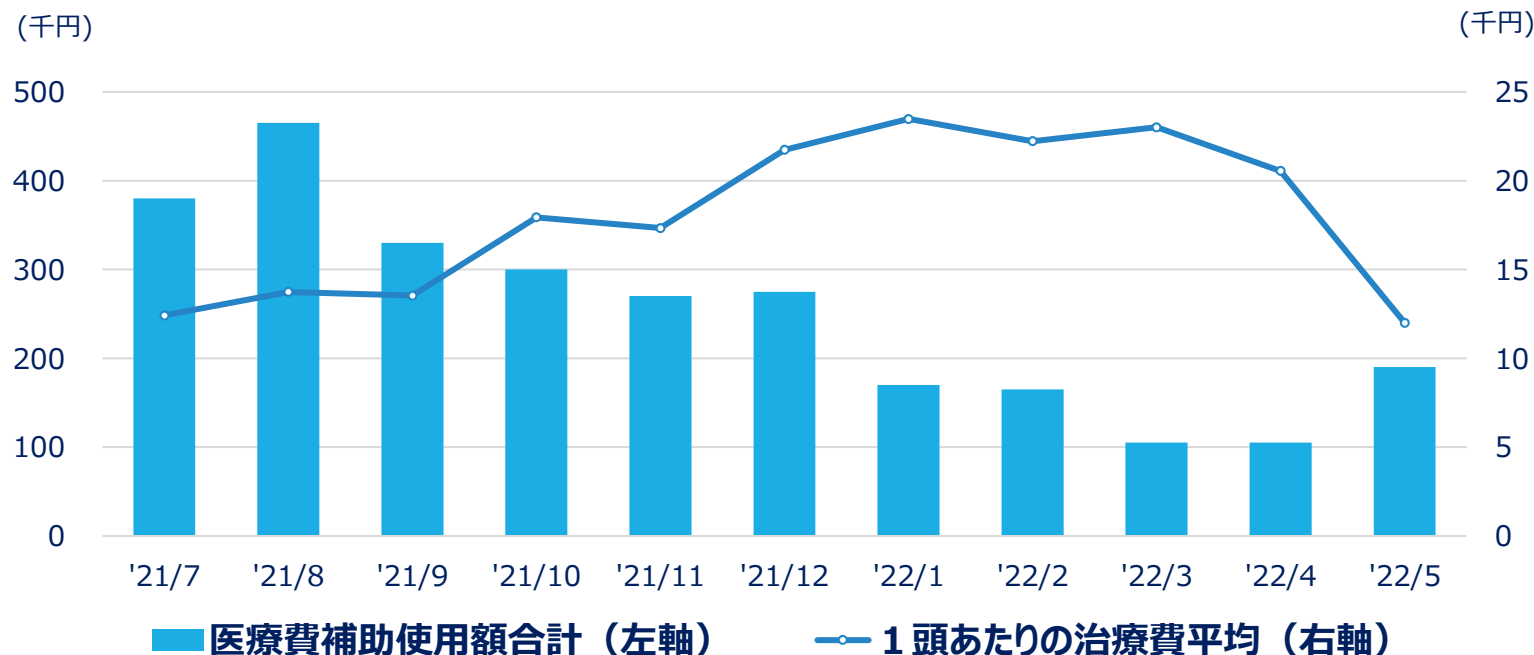
※ 2021年7月1日～2022年5月31日（診察日ベース）

※ 各協力動物病院からの回答をもとにクリステル財団が作成

実績：医療費補助使用金額合計および治療費平均の推移

- 月毎にみると、**冬の間、利用が少ない**傾向
(1月までに想定使用額を上回った病院については、2月～5月、使用数を一部コントロール)
- 医療費補助使用金額合計と1頭あたりの治療費平均には、相関性は見られず
むしろ、**使用額合計が少ない月**に、**1頭あたりの治療費平均が高い**傾向

医療費補助使用金額合計および 1頭あたりの治療費平均の推移※

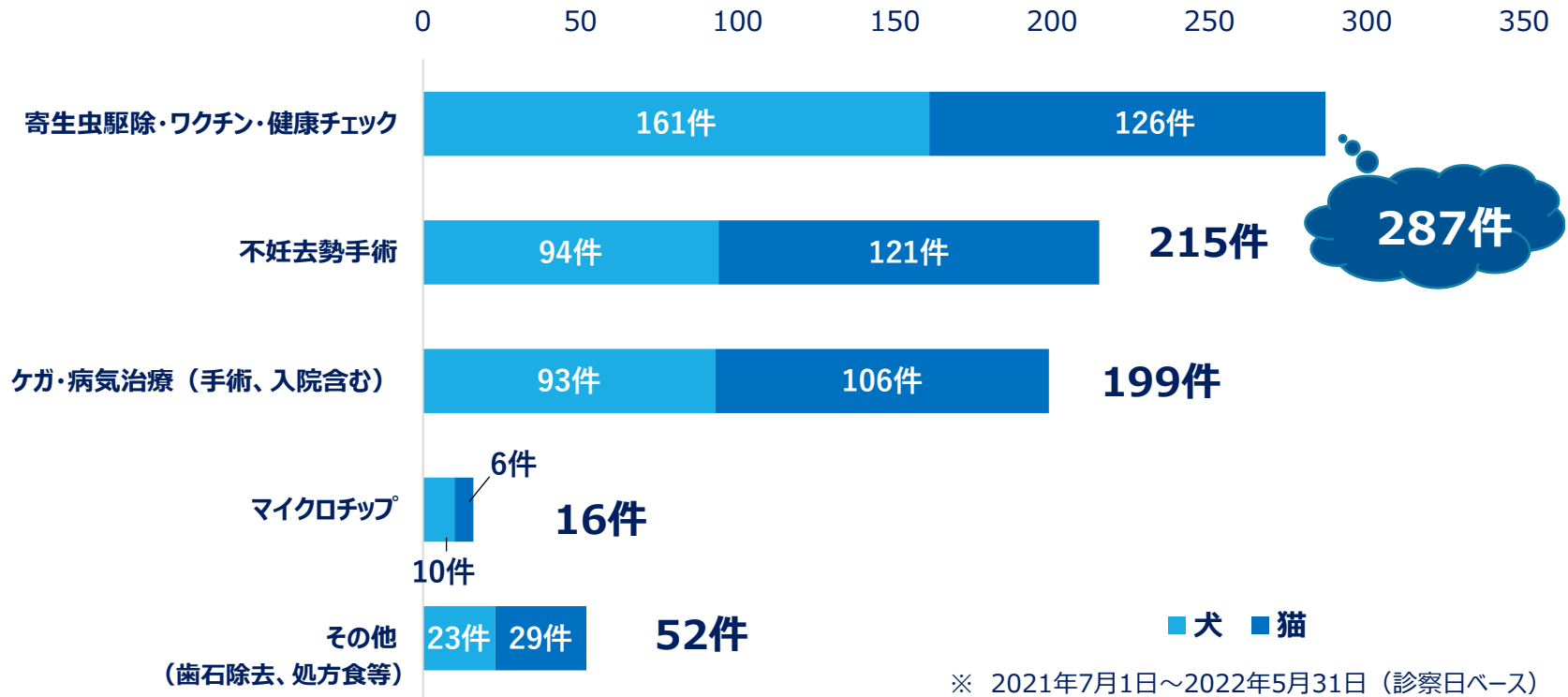


※ 2021年7月1日～2022年5月31日（診察日ベース）
※ 各協力動物病院からの回答をもとにクリステル財団が作成

実績：医療費補助の使途

- **複数処置の組み合わせが大半**。医療費補助があるため、より多くの処置が行えたとの声も
- 犬猫ともに最も多かった使途は、寄生虫駆除・ワクチン・健康チェック等、いわゆる**初期医療関連**
- 犬猫とも、2番目に多かった使途は**不妊去勢手術**
- **マイクロチップの装置**に使用されることも
→ 6月以降のマイクロチップ装置義務化に伴い、次期以降、さらに増加する可能性あり

医療費補助の使途※



※ 2021年7月1日～2022年5月31日（診察日ベース）
 ※ 各協力動物病院からの回答をもとにクリスタル財団が作成
 ※ 複数回答、一部回答の場合あり

3. 課題と改善策

保護犬猫支援基金の認知度・浸透度アップ

協力動物病院・利用者・原資をいかに増やすか

- 第一期であったため、今期は**協力動物病院数を限定**、地域も**関東甲信越地方に限定**して運営
- 医療費補助が適切に使用されるよう、協力動物病院と**すでに信頼関係のある保護団体・ボランティア等**による当基金の医療費補助の使用が大半



運営・手続きの業務負荷改善

手続き、補助を使用するかどうかの判断等、改善余地あり

- 使用者の手続きが簡単な一方、動物病院に業務負荷
- 現状も、各協力動物病院から負荷は限定的と言われているが、**申請フォーム**に改善の余地あり
- 当基金が広まり使用者が増えると、**仕組み説明**、**医療費補助の使用が適切かどうかの判断等**、負担増の可能性あり



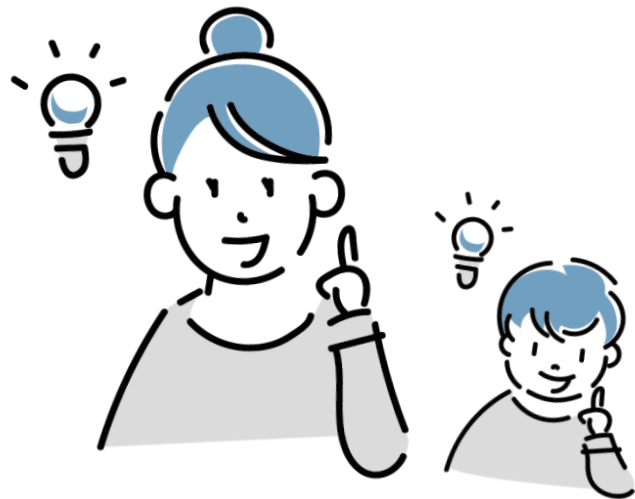
保護犬猫支援基金の認知度・浸透度アップ

宣伝および使途の報告強化

- **チラシ制作**。各協力動物病院に設置/配布を依頼
(協力動物病院からも要望有り)
- **SNS、HPを使った宣伝、報告（使途の見える化）**

協力動物病院を全国に

- 原資や運営コスト等とのバランスを鑑みながら、
協力動物病院数を増やす検討



運営・手続きの業務負荷改善

申請フォーム簡素化

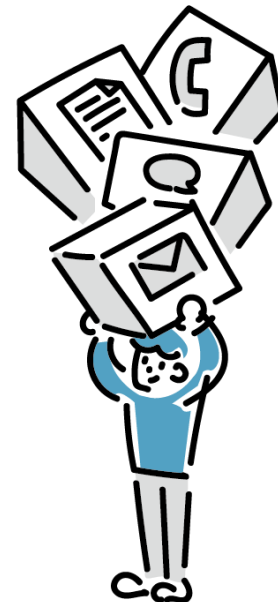
- **申請フォーム簡素化**（記述を減らし選択式の回答に）

当基金の仕組み説明の簡略化

- チラシを活用。使用者に対する**仕組み説明の簡略化**

医療費補助の使用が適切かどうかの判断軸策定

- **協力動物病院**に判断の裁量が有つつ、新規使用者には身分
証を提示いただく等、財団が**詳細なガイドライン策定**を検討



4. 補足資料

補足資料：保護犬猫支援基金の概要

なぜ保護犬猫に医療費補助？

主に以下を目的として、2021年7月より運営開始

- ① 保護犬・猫の保護に尽力される方々の**費用負担軽減**
- ② 保護犬・猫が必要な医療を受けられることにより、**アニマルウェルフェア向上**を目指し、譲渡促進につなげたい

基金の医療費補助の仕組みは？

協力動物病院で医療行為を受けた、**保護犬・猫1頭あたり5,000円の医療費補助**

基金のお金はどこからくるの？

ご賛同頂いた**スポンサー様**からの**ご寄附**が原資

医療費補助の対象は？

原則、**譲渡を前提**とした**保護犬・猫**に対する**医療行為**が対象

協力動物病院の判断で、飼い主のいない猫への**不妊去勢手術 (TNR)** 等への**使用も可**

医療費補助を利用するためには？

クリステル財団と各協力動物病院との**2者間で申請手続きが完結**

手順は以下の通り

- ① クリステル財団が、各協力動物病院に、医療費補助を**割り当て**
- ② 保護団体/ボランティアが連れてきた保護犬・猫に対し各協力動物病院が**医療行為を実施**
- ③ **会計時**、各協力動物病院が、**補助額をディスカウント**
- ④ 後日、各協力動物病院が、クリステル財団に**医療費補助使用およびその詳細を報告**

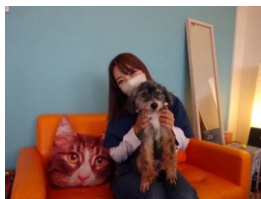


- 2022年2月以降、計3つの協力動物病院を訪問。感想・要望をヒアリング
- 基金運営をより良くするため、今後も実施予定

2022年2月 らむ動物病院取材

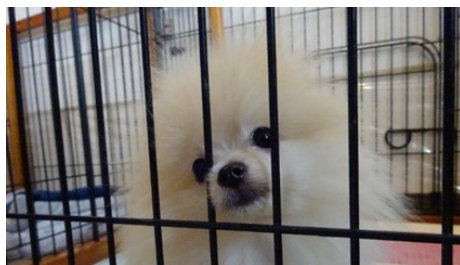
取材内容

- 協力動物病院に当基金を通した医療費補助の感想・要望をヒアリング



感想

- 医療費補助があることで、ない場合よりも1つ多くの処置に手が届くことも多く、本当に助かっています。
- チラシなどがあれば病院利用者さん達に紹介できると思います。



2022年3月 大師前どうぶつ病院取材

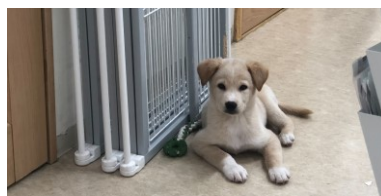
取材内容

- 協力動物病院に当基金を通した医療費補助の感想・要望をヒアリング



感想

- 大師前どうぶつ病院において当基金の医療費補助を利用される方は、フォスター活動をされている方、TNR活動をされている方等、個人が多いことが特徴です。
- 使用者さんから、大変助かる、との声をいただいています。



2022年5月 ペットスペース&アニマル クリニックまりも取材

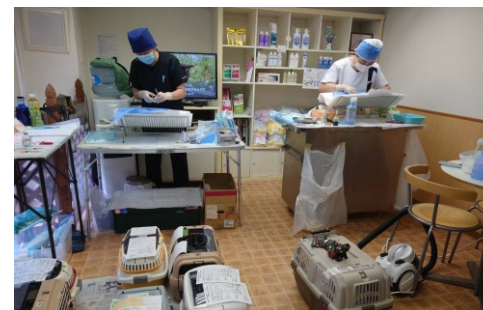
取材内容

- 協力動物病院および医療費補助の使用者であるボランティアさんに感想・要望をヒアリング
- 合わせて、計18頭の猫の、不妊去勢手術、マイクロチップ挿入、ワクチン接種等を行う様子を見学



感想

- 本当に助かっています。手続きもとても簡単でありがたいです。（ボランティアさんより）
- 動物病院としても、手続きが楽です。（まりもさんより）



共に、生きる。



**Christel
Vie Ensemble
Foundation**